

2020
4-5月

はしかけニューズレター

2020年度 第1号 通巻152号

2020年(令和2年)4月1日発行



編集・発行：滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当（はしかけ担当職員：交流係）

住所：〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話：077-568-4811 ファックス：077-568-4850

電子メール：hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ：https://www.biwahaku.jp

(注意) 平成30年11月よりHPアドレスが変更になっています。

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ！ディスカバはしかけ
- (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
- (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
- (24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会 (26) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数・・・301人
グループ数 26グループ
(2020年4月1日現在)

1. 事務局からのお知らせ

新型コロナウイルス感染症対策で博物館が臨時休館となり、はしかけ会員の皆様には大変、ご不便をお掛けしております。先が見通せない現状ではありますが、はしかけニューズレターについては通常どおり発行してまいりますので、引き続きお引き立て頂きますようお願いいたします。

(1) 更新手続きについて

年度末更新手続きがお済みでない方は、次の方法で更新を受け付けます。更新受付票の提出（FAX、メール添付など）と合わせて、ボランティア活動保険料350円の納入をお願いします。ただし、はしかけ以外の活動団体ですでにボランティア保険に加入されている方は不要です。

納入方法は、郵便振替口座への振替あるいは振込に限らせていただきます。郵便振替口座（00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度）宛に、350円の振り込み（手数料別）をお願いします。

ただし、4月1日以降の更新手続きについては、手続き希望者が一定数まとまった段階で行いますので、更新受付票を送付頂いてから名札等をお送りするまで、1か月程度の期間が空くことがありますので、ご了承ください。

(2) 2020年度 第1回はしかけ登録講座

はしかけ登録講座の第1回を2020年5月17日（日）に開催予定です。各グループの代表の方には、可能な限り、活動紹介をお願いしております（約2分間の活動紹介）。場所：琵琶湖博物館セミナー室 受付：13:00～ 開始：13:30～

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 41名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田 征也

【活動報告】

■ 1月19日(日) 勉強会 場所: 琵琶湖博物館会議室 参加者: 24名

この冬は暖冬ぎみで、まだ守山草津では初雪を見ていませんが、この日は比較的寒い日となりました。そんな中勉強会に24名の参加者がありました。

1. 勉強会

熊木慧弥さんが高校の科学部で研究しているハリヨについて、すこし緊張しながらも、パワーポイントを用いて詳しく解説してくれました。質疑では、うおの会会員や博物館学芸員からいろいろなアドバイスを受けていました。今後の熊木くんの活躍が期待されます。熊木くん頑張れ!

2. 担当学芸員の松田さんより、以前出版したのと同じような、うおの会の成果をまとめた研究報告書を作ることが提案され、作ることになりました。また次年度の企画展でも、会の活動を紹介する展示を構想中とのこと。皆様のご協力をお願いします。(報告: 水戸基博)

■ 2月16日(日) 勉強会・データまとめ振り返りの会 場所: 琵琶湖博物館会議室 参加者: 17名

令和元年度のデータのまとめを行いました。定例調査、個人調査、イベント調査の地点と、確認された魚種をまとめ、2枚の地図に表示します。GPSで確認された調査地点を地図に貼る人、調査地ごとの魚種をまとめる人、確認魚種のイラストを切り抜く人、切り抜かれたイラストを地図に貼り込む人。和気あいあいと、雑談も大いに交え、今年のまとめも終わりました。

改めて地図を見ると、今年は北部の調査が少なかったことや、それぞれの地点で観察された魚種がそこそこ多かったことなど調査の当日では気づかなかったことが再確認されました。(報告: 石井千津)

【活動予定】

■ 3月29日(日) 総会(延期)

■ 4月以降の活動計画は総会後にホームページに掲載します。

【活動報告】

■ 1月18(土) 場所: 甲賀市信楽町 参加者: 2名

昨年の夏に続いて第4回目となる修験の聖地「飯道山・飯道神社」ツアーを実施

信楽町宮町区が所属する雲井自治振興会と甲賀市にある博物館の依頼で修験の聖地巡礼を実施。宮町ルートで古権現(頂上)まで登山、頂上直下の祭祀場跡や三基の古墳のような人工的な場所を見学の後、奈良時代の創建とされる重要文化財の飯道神社本殿と今も多くの石垣が残る飯道寺塔頭跡を散策、豊臣秀吉と親交のあった木喰応其の入定窟や天正伊賀の乱後に飯道寺に宿泊した織田信長、また、関ヶ原の合戦で敵陣突破して退却した島津義弘ゆかりの梅本院跡なども解説。修験、山伏、忍者についての認識や明治以降の甲賀の歴史を知っていただく機会になりました。甲賀准四国の設立に深く関わる飯道寺は巡礼の歴史勉強会にとっても活動の原点とも言えるべき場所で、今後も大切に保存すべき文化財です。

(今回のツアーの参加者数は42名)



飯道山山頂を目指す参加者



古権現と呼ばれる山頂



神社参道から見る紫香楽宮跡



飯道神社本殿



本殿前で歴史解説



木喰応其上人の入定窟前にて説明

■ 1月30日（木）三大寺古墳群の調査で飯道寺の道標とアオバトに遭遇 場所：甲賀市三大寺 参加者：2名

飯道山麓の杣川流域にある甲賀群集墳（後期の古墳群）の中で城川古墳群を調査。円墳が多い甲賀の中に前方後円墳の形状をした墳墓のように見られるため興味深く調査した。途中の山道の分岐点で、飯道寺の道標も発見することができた。また、偶然にも非常に珍しいアオバトを間近で見ることができた。



飯道山につながる山道の道標



右 飯道寺 左 しがらき道



城川古墳群にある前方後円墳のような形状の古墳



離れると古墳の形状がよくわかる



羽を痛めたアオバトに遭遇

■ 2月21日（金）甲賀市くすり学習館企画展「山伏の祈りとくすり」に資料提供 場所：甲賀市甲賀町 参加者：2名

中世から近世にかけて、甲賀では修験道が栄え、山伏たちは山野に自生する薬草の知識を身につけてくすりを作った。これが、その後の甲賀の配置売薬につながる山伏の活動でした。この企画展に甲賀准四国の創設に繋がる山伏の古文書や仏像等も提供した。この企画展に甲賀准四国の創設に繋がる山伏の古文書や仏像等も提供した。



※展示物の写真はくすり学習館から特別に許可を得て撮影し添付しています。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・各寺院への訪問調査を進める。
- ・琵琶湖博物館でのパネル展示に向けた準備を進める。

(福野 憲二)

*この活動に興味のある方は、グループ代表メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数（のべ） 6名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

- 1月26日（日）場所：オープンラボ（琵琶湖博物館） 参加者：3名

それぞれ昆虫や鳥などをスケッチ。

- 2月22日（日）場所：オープンラボ（琵琶湖博物館） 参加者：3名

それぞれ鳥のはく製や蝶などの標本をスケッチ。

【活動予定】

- 4月26日（日）浜大津イングリッシュガーデン周辺にて活動予定。植物園や周辺を散策・スケッチ

※10時30分 イングリッシュガーデンチケット売場前に集合。

- 5月24日（日）海津大崎（高島市）にて活動予定。

※集合場所および集合時間については後日連絡をさせていただきます。

*変更がある場合は、メールでお知らせします。

※初めて参加される方は080-5709-8634（金山）までご連絡ください。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数（のべ） 7名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】

織姫の会

- 1月25日（土）参加者：4名

前回に引き続き、スカリの作成。とりあえず、朽木で習ったスカリは作れるようになりました。

- 2月8日（土）参加者：3名

各自の作業。また、工房の中川さんに同行、オギなどの植物採集。

- 2月29日（土）、3月11日（水）

博物館休館により、中止。

【活動予定】

■ 織姫の会

4月11日（土）、22日（水）、5月9日（土）、27日（水）

（辻川 智代）



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■ 1月18日(日)「薄片の試作とその見方の勉強会」 参加者: 10名

○概要

2020年の最初の活動として、博物館内で薄片の試作と勉強会を行った。今回は代表的な岩石である花崗岩を全員が薄片にすることにより、①薄片の研磨方法の習得、②薄片の見方を学ぶこと、③花崗岩中の鉱物の多様性を観察することを目的に試作とその評価を実施した。

①研磨

前もって薄片班リーダーの安井さんが、仕上げ前まで薄くしてくれた花崗岩の薄片を使い、その厚さに応じて研磨材#220、#600、#1000で研磨を行った。偏光顕微鏡で、鉱物の厚さによる干渉色を確認しながら、研磨材で磨る、顕微鏡で観察することを繰り返して、30μの薄さの仕上げに臨んだ。

②薄片の観察

各自が実習室の顕微鏡で観察をした後、おとなのディスカバリーにて、薄片の仕上がり具合を、皆で観察した。作製した薄片を一枚ずつ順次に見ながら、次のように教えて頂いた。

- ・花崗岩に含まれる主要鉱物の晶出順位は、1 黒雲母、2 斜長石、3 アルカリ長石、4 石英。
- ・石英は白くて、のっぺりしている無色鉱物。
- ・アルカリ長石のパースサイト組織は、ミミズのような破線模様がいく筋もある。パースサイト組織と斜長石のストライプ模様が重なると、格子状に見える。
- ・斜長石のアルバイツ双晶は、ストライプ模様。
- ・黒雲母は多色性があり、黄色、茶色、黒色に見える。
- ・石基は小さな破片の集まりなど。

この間、いつものように隊員の質問に先生の説明、あるいは先生の質問に隊員の返答などの、双方質疑応答を繰り返して学び、全員が花崗岩鉱物の見方の理解が進んだように思えた。

○岩石調査の基礎技能の習得

岩石を調査するには色んな技能が必要である。今回は、薄片担当の安井さんが事前に1次切断、1次研磨、プレパラート接着、2次切断、2次研磨まで実施してくれました。ほぼ、薄片試作の基礎技能の習得が出来たと思います。今後、色んな技能の獲得を進めて行きたいと思います。

■ 2月16日(土)「地学研究会への積極的な参加」

琵琶湖博物館と滋賀大学共催の地学研究会に下記の2件の報告をした。また、多数の隊員の方が出席頂き、有難うございました。

- (1) 大津市・音羽山周辺の火成岩とその岩脈について(発表者: 梅澤正夫)
- (2) 滋賀県・花こう岩体中の熱水変質岩の磁性鉱物について(発表者: 安井加奈恵)

■ 2020年3月の活動

薄片関係の勉強会を3/14に計画しましたが新型コロナウイルスの影響で博物館が休館したので中止した。

【活動予定】

2020年4月は、4/11 or 4/19に音羽山近辺の野外調査を計画中。火成岩とその岩脈と断層、基盤岩の調査です。新型コロナウイルスの感染拡大防止のための自粛が収まったら、山桜とコブシ、紫色のツツジの向こうに琵琶湖と琵琶湖コールドロンに関連する山々、その果てのペイルブルーの空に薄っすらと浮かぶ白山も見えるかも。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosen@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■コイ科魚類の咽頭歯についての勉強会・咽頭歯化石の同定実習

①日時: 2020年2月2日(日) 13:00~16:00 参加者: 11名

場所: 琵琶湖博物館 実習室1

活動内容: 中島経夫先生に講師をお願いし、活動の前半にはコイ科魚類の咽頭歯についての勉強会を行いました。コイ科魚類の咽頭歯の各部の名称や発生段階における形態の変化、それぞれの歯の特徴などについて詳しく講義をしていただきました。

その後、継続してクリーニングに取り組んできた、多賀の発掘調査で採取された咽頭歯化石の同定実習を行いました。同定するためには、実体顕微鏡で咽頭歯化石の形状を様々な方向から確認する必要があり、大変難しい実習となりました。まずは、それぞれが標本を観察し、何の魚のどの歯の化石なのか考えました。わからない場合は、他のメンバーと議論しながら推理し、自分達なりの結論を出したうえで中島先生に確認していただき、さらに詳しい解説をしていただきました。同定した咽頭歯化石は記録して保存しました。



■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

①日時: 2020年1月18日(土) 13:00~16:00 参加者: 4名

②日時: 2020年2月7日(金) 13:00~16:00 参加者: 3名

③日時: 2020年2月12日(水) 13:00~16:00 参加者: 4名

場所: 琵琶湖博物館 実習室1

活動内容: 多賀の発掘現場で採取した土を丁寧に小割りして顕微鏡で観察し、微小な化石を探す作業を行いました。

※2020年2月28日(金) 13:00~16:00に予定していた作業は、新型コロナウイルス対策の為に琵琶湖博物館臨時休館により中止しました。

■古琵琶湖発掘調査隊 総会

2020年3月14日(土) 13:00~16:00に予定していた総会は、新型コロナウイルス対策の為に琵琶湖博物館臨時休館により中止しました。

【活動予定】

■未定

【その他】

古琵琶湖発掘調査隊の一員である西岡 陸さん(大阪市立咲くやこの花高等学校)が、「下部鮮新統古琵琶湖層群伊賀層及び上野層の *Igapaludina stricta* 群集について」というタイトルで、第35回地学研究発表会(2020年2月16日(日)・会場: 滋賀大学大津サテライトプラザ)で研究報告をされました。



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■ 1月26日(日)「びわこの旅」上演

11月の活動から少し間が空きましたが、元気な子どもたちと楽しく交流しました。いつものように「びわこの旅」を上演し、琵琶湖にいる生き物たちの名前の当てっこすると、とてもよく知っている子どもさんがいてびっくりしました。そして「生きている琵琶湖」の合唱の時の歌詞カードの裏にトンボが書かれているので、企画展示室で開催されている「トンボ100大作戦」紹介をしながら、滋賀にはたくさんの種類のトンボがいることを伝えました。その後、お話を聞くのが大好きな子どもたちは、「カヤネズミのおかあさん」の紙芝居も熱心に聞いてくれました。

3月8日は活動予定でしたが、博物館休館のために中止になりました。

【活動予定】 未定です。



(10) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 妹尾裕介・大槻 達郎

新型コロナウイルス感染症対策のため、イベント、総会は中止になり、ザ! ディスカバはしかけの活動はできず残念でした。ただ、少しずつ季節は移ろい、桜のつぼみも膨らんできて、春の訪れが感じられます。来年度、気持ちも新たに、参加者の笑顔がさく楽しいイベントができればと思います。

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 現在調整中、詳しい内容はメールで問い合わせください。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に妹尾・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう!

また、ザ! ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひぜひご参加ください。



(11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 15名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp (登録会員数: 36名) グループ担当職員: 山本 綾美

【活動報告】

■ 3月7日(土)キノコの植菌体験&総会 参加者 15名



例年は、博物館の生活実験工房で総会を実施していますが、琵琶湖博物館が臨時休館でしたのではしかけの森でキノコの植菌体験と総会を実施しました。とてもいい天気、いい気持ち。寺尾さんが用意してくれたコナラの木にシイタケの菌駒を打ち込んでいきます。原木しいたけは、それだけでごちそうです、キノコが出るのが楽しみです。

作業終了後は、焚火を囲んで、お茶をしながら来年度の計画について相談しました。最後に、今年度の反省について意見を出し合い、今年の活動目標を決めました。はしかけ里山の会はこの2年ほど新規会員が増えたので、新人さんのスキルアップを目標に来年度も楽しく活動を行います!

ところで、はしかけの森の中に立てておいた丸太の上で、リスさんが松の実を食べた痕跡がありました!! リスの通う広場「はしかけの森」これからも整備しながらたくさんの生き物とも関わってきたいですね。(綾)



【活動予定】

■ 4月18日(土) 里山体験教室 下見 4月26日(日) 里山体験教室本番 5月3日(日) 山菜パーティ



(12) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

この冬は、積雪が無い地域が多く、伊吹山もすでに白い部分が見られなくなっていました。ユキワリイチゲやセツブンソウも立春を過ぎた頃から咲き始め、2月中旬には満開を迎えていました。

【活動報告】

■ 2月 活動なし

3月1日(日)「本年度のふり返り、来年度の計画」 臨時休館による活動停止

【活動予定】

■ 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。 遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。

外部で行う観察会は、年に1~2回、はしかけのみなさんにも呼びかけを行う予定です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。

■ 4月 未定 「タンポポを見よう(仮)」

■ 5月 未定

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(〇〇)/
当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



(13) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

山本会員による藤前干潟(愛知県)の珪藻の論文(3つの方法を組み合わせた現地植生解明の方法論)が、早期公開版としてウェブ公開されました。ただし山本さんの所属は大学院当時もので、たんさいぼうの会名義ではありません。出版誌はチェコの藻類学雑誌で、早くから全ての論文をオープンアクセスとすることで国際誌としての地位を確立しています。

Yamamoto, M. & Ohtsuka, T. (2020) Evaluation of three preparation methods for living diatoms at a sandy river-mouth tidal flat: conventional acid-cleaning, nuclear staining, and sieving. Fottea, Olomouc 20: 17-24.

この方法論に基づいた珪藻植生報告の論文も、すでに投稿され、現在、審査中です。

藤ヶ鳴湿原(岡山市)の珪藻については、写真の追加撮影を終え、現在、100種以上まで増えた珪藻の再同定作業を進めています。瀬田公園湿地(大津市)の珪藻については、序論や考察の材料とするために、ため池の成り立ちを龍谷大学の林珠乃先生に聞きに行き、貴重な文献をいくつか頂いて来ました。他にもそれぞれの会員が、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、メダカの水槽に出現した珪藻の研究、5年前に採集した愛知県の鉾質土壌湿地群の珪藻植生研究、10年あまり前に採集した曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究などを進めています。

【活動予定】

4月4日に予定していた総会は、新型コロナウイルス対策で無期延期になりました。会員数名が発表を予定している日本珪藻学会大会(5月16~17日、つくば)も、開催できるかどうか不透明になってきました。それでも私たちは、集まらなくてもできる活動を、それぞれに進めていきます。



(14) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

春の日差しで田んぼの土は少しずつ温かくなっていますが、エビ類はまだ卵で休眠中。グループ員も冬眠、いや、春眠を決め込んでいるようです。冬の間も頑張っていたのは、会長宅の窓際に置かれた水槽の金魚たち。きれいな「みどり水」を作って、エビ類の飼育実験が始まるのを心待ちにしているようです。



さて、2019年度の活動報告と2020年度の計画を立案するための総会を3月8日に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で博物館が休館になったことに伴い、3月下旬以降に延期しました。博物館の開館状況を踏まえて、改めて日程調整を行います。早くこの騒ぎが治まってくれることを祈ります。

(石井千津・山川 栄樹)



(15) タンポポ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

＜「タンポポ調査・西日本2020」実施中＞

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、ついに来る3月から「タンポポ調査・西日本2020」の調査が始まり、とうとう2年目の本調査になりました。琵琶湖博物館は、前回に引き続いて滋賀県の実行委員会を引き受けています。

＜はしかけメンバー募集中！＞

本調査は、2020年3月1日から始まっています。興味のある方は、上記メールアドレスに連絡をくださるか、博物館で学芸員の芦谷に声をおかけください。

＜「タンポポ調査・西日本2020」の調査票、2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書を配布します！＞

現在琵琶湖博物館は臨時休館中ですが、「タンポポ調査・西日本2020」の調査票を、「おとなのディスカバリー」の植物コーナーに置いてあります。ご希望の方はお立ち寄りください。休館期間中は、館で芦谷に声をかけていただくか、上記のアドレス含めてその他の連絡方法でお尋ねください。

調査は、どなたでも参加できます。ご興味のある方はぜひご参加ください。

【活動報告】

グループとしての活動は特になし。

【活動予定】

★2020年4月11日(土) 13:30～ 「からすま半島でタンポポを調べよう」という博物館主催の観察会が開かれます。お手伝い、あるいは一緒に博物館周辺をタンポポ調査して下さる方を募集します。

通常事前申込が必要な行事ですが、はしかけの皆さん(グループメンバー以外も歓迎)で参加希望の方があれば、グループあてに連絡をください。特別枠で参加していただけます。

現在新型コロナウイルス感染対策で臨時休館しており、4月の行事がどうなるか現時点で決まっていますが、もし行事が中止になっても、はしかけの参加希望の方があれば場所を変えてタンポポ調査をしたいと思います。

★上記の博物館の観察会以外でも、随時、タンポポ調査に出かける予定です。興味がある方はお声かけください(直接、メールなんでも)。ぜひ一緒にタンポポ調査に出かけましょう。





【活動報告】

■ 2月26日(水) 10:00~14:00 参加者 子ども8名(0才~4才)、保護者7名、スタッフ4名、大学生1名

第3週は博物館が休館のため第4週の開催となりました。春を感じられる生活実験工房の畑や森、みんなで出かけると落ち葉の間にかわいいフキやツクシを見つけることができました。早速フキはフキ味噌にしてみました。ほんのりフキの香りと柔らかい苦み、春を味わうことができました。樹冠トレイルに登ると、広い琵琶湖とホワイトビーチが見えます。ホワイトビーチでは、砂を積み上げて山づくり、そろそろ北へ帰る冬鳥さんたちに大きな声で「いってらっしゃい」、みんなで走り回って白い砂浜を楽しみました。

■ 3月18日(水) 10:00~14:00 参加者 子ども7名(0才~5才)、保護者5名、スタッフ3名

新型コロナウイルスで休館のため、博物館を飛び出して栗東市の「あさがら野 子どもと自然舎」で活動を行いました。2頭のヤギさんや広い原っぱ、畑、お家があり、みかんをもちで食べたり、草を取ってヤギさんにあげたりと自由を楽しめます。たき火を囲んでのお母さんのおしゃべりや木につるしたハンモックに揺られて空を見上げたり、泥遊びにヒヤヒヤしたりと、たっぷり遊びました。ヤギさんに恐る恐る近づいて、草をあげると喜んでパクパク食べてくれます。だんだんと慣れてくると、やさしくなでてあげたり、様子をじっくり観察したりと子どもたちにとって初めての動物との出会いでした。

子育てサロン等が休止になり、子育て中の母子にとって行き場がなくなる中、ちこあそを開催したことにお母さん方からは「開催してくださってありがとうございます」との言葉を頂きました。

今回、検温や健康観察をお願いしたり、スタッフも多くならないように配慮して、感染のリスクを最大限低くしながらの開催でしたが、新しいちこあその展開を得ることもできました。



①



②



③



④

①ホワイトビーチで遊びました。砂を掘ったり、積んだり、無限の砂場です ②ルーペで生き物観察 何を見つけたかな？ ③恐る恐るヤギに葉っぱをあげています。大丈夫だよ、かまないよ。④ハンモックでゆらーりゆらーり

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。 <http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
4月	4月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ4月	※毎月おおよそ第3水曜日に行っています。
5月	5月13日(水) 10:00-14:00	ちこあそ5月	5月、 ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

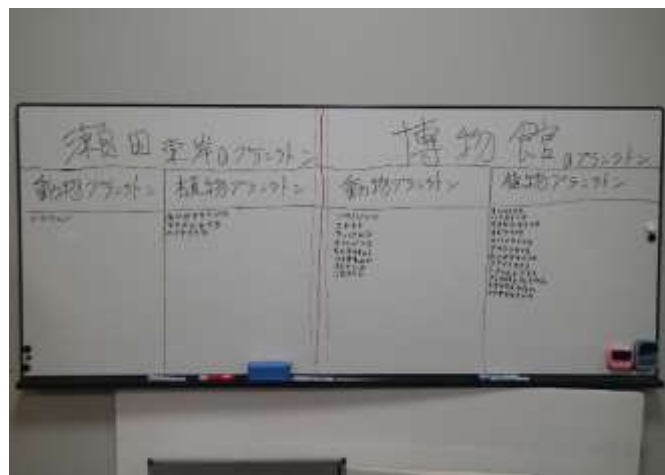
■ 1月25日(土) 参加者: 9名

博物館の周辺のプランクトンを観察しました。今回、会員のベテラン二人が持参した顕微鏡の解像力のテストをしていました。珪藻は殻の表面に非常に緻密な構造を持っています。大塚学芸員が用意した珪藻プレパラートを顕微鏡で観察して細かな特徴を解像しているかを確認しました。また参加した子供の二人はプランクトンの種類当てクイズを行っていました。



プランクトンクイズの様子

顕微鏡で観察したプランクトンを図鑑で探しました



プランクトンクイズで見つかったプランクトンのリスト

■ 2月11日(火) 参加者: 5名

博物館の周辺のプランクトンを観察しました。今回はストロボや麻酔を使い、動きを止めて観察・撮影を行いました。普段動き回って観察しづらい繊毛虫が繊毛の動きを止めじっとしていました。細胞の中の収縮胞の動きが観察できました。今回の麻酔方法では一部の繊毛虫にしか効かなかったので他の生物を止めることができる方法があれば探してみたいと思いました。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



【活動報告】

■ 2月8日(土)「骨にふれてみよう！」 参加者: 40名



リカを紙粘土で作りました。骨好きの参加者は本物そっくりの骨を作って大満足。さらに宿題までもらいました。

(わくたんメンバー: よっちゃん)

※3月14日(土) 開催予定の「お魚モビールをつくろう！」は新型コロナウイルスの影響で残念ですが中止になりました。

【活動予定】

■ 5月9日(土)「春の草花でしおりを作ろう！」

今回は「骨にふれてみよう！」というプログラムで、ほねほねくらぶさんとのコラボ企画です。ほねほねくらぶのメンバーを博士に迎え、「骨とは何か」興味深いお話をはじめにしてもらいました。次に、参加者は実物の骨を目の前に「博士からの挑戦状」に挑みました。挑戦状の中身は、骨のひとかけらを手にし、その骨と同じ形の骨をたくさんの中から探したり、バラバラの骨を組み立てて動物の骨格について考えたりするものでした。最後にお気に入りの骨を一つ選んで、その骨のレプ



↑《宿題》骨を切り取り動物の体に貼り付けていく

【活動報告】

■ 2月1日(土) 参加者: 2名

イタチの解剖、キジバトの翼標本の制作を行いました。
また、今回は次週に開催予定のわくわく探検隊のための準備作業もあわせて行いました。



▲キジバトの翼標本と翼の骨格です。

■ 2月8日(土) 参加者: 3名

琵琶湖博物館において、わくわく探検隊のプログラム「骨に触ってみよう」をはしかけのびわたんさんと共催しました。

プログラムとしては、全身の骨の中から各自にお渡ししたレプリカと同じ骨を探し出してもらい、それをきっかけにして骨をじっくりと見てもらい、その後気に入った骨を紙粘土で作ってもらうというものでした。

わくわく探検隊でプログラムを担当させてもらうのは去年に引き続き二回目でしたが、まだまだ慣れることがなく、悩みながらの本番となりました。

このようなプログラムを行うと、その準備の過程でもいろいろな事を考える事になり、自分達の出来る事や自分達の足りないところなど、普段の活動では見えないところに目が行く、貴重な機会になっていると感じます。

■ 2月22日(土) 参加者: 2名

キツネの組み立てとフナを組み立てを行いました。
今回から新たにキツネの組み立てを開始、今回は組み立て前の下準備のような作業として、全身の骨の並びの確認やポージングの決定、必要になる支柱の設定、設計図の制作などを行いました。組み立て標本は制作を始めると、大きくは変更ができないので、制作前にしっかりと予定を立てておくと、後々困ることが少なくてすみます。



▲組み立て中のキツネの骨
背景は組み立てのための設計図になっています。

■ 3月8日(日)

博物館休館に伴い中止となりました。

【活動予定】

4月、5月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



(20) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■ 2月2日(日) 木のスプーン作り 場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者: 10名

初めての試みとして、温もりのある木のスプーン作りを行いました。木を削っていると自然とその香りや触ったときに心が癒されると思います。緑のくすり箱は、生活実験工房で活動することが多く、中川さんが作っておられる、木のカトラリーを以前から作ってみたいという声があり、実現しました。木屑などがたくさん出るので、汚れてもよい服装と、エプロン、マスクを持参し、まずは、一番挑戦しやすいスプーンを作りました。桜の木に、型紙をおいて、おおまかなスプーンの形を鉛筆で書き、ノコギリで余計な部分をカットしていきます。それから彫刻刀で掘って、電動のやすりや紙やすりで削っていき、アマニオイルを塗って完成です。文章で書くと、とても簡単のように思えますが、実際にはノコギリでカットする工程では、木を机に固定することから、慣れなくてなかなか難しかったです。味わいのある自分だけの木のスプーンが出来上がった時には、とても感動しました。

(参加者の感想)

- ・黙々と桜の木を磨けば、無の境地に・・・素敵なスプーンができました。
- ・企画くださりありがとうございました。最初はどうなることかと思いましたが、最終的に素敵なスプーンが完成し、ホッとしました。腕の筋肉痛になりました。
- ・木を切って彫って磨くということがこんなに大変だったのですね。スプーンの形まで彫ったのに、ボキッと折れた時にはどうしようと思いましたが、中川さんに助けてもらいながら無事作れました。



【活動予定】

■ 4月5日(日) 10:00～ 総会 場所: 実習室2



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋 克郎

【活動報告】

■ 2月9日(土) 13:00～15:00 今後の活動の話し合い 場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者: 5名

2019年度活動の振り返りと今後の活動計画の相談、採集用具の確認など。

【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を予定しております。山間部などで昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。

(文責: 梶田)



(22) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■ 1月25日(土) 10:00~12:00 動物カメラのメンテナンス、屋外の森の保全活動など 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 4名 (博物館職員) 林

内容: ① 動物カメラの電池及びSDカード交換を行った。鳥類はキジバト、シロハラ、ジョウビタキ(♂、♀)、モズ、哺乳類はタヌキ、キツネ、ネコ(2个体)が確認された。② 樹冠トレイル下と遷移実験区のある植物などの除去作業を行った。

■ 2月8日(土) 10:30~16:00 動物カメラのメンテナンスとヨシの調査 場所: 生活実験工房、西の湖

参加者: (会員) 5名 (博物館職員) 林

内容: ① 10:30~11:00 動物カメラの電池及びSDカード交換を行った。鳥類はキジバトとシロハラ、哺乳類はタヌキと久しぶりにイタチが確認された。

② ヨシの調査・・・11時に安土B&G海洋センター(近江八幡市)に向けて移動、昼食後13~16時頃まで調査を行った。地上バイオマス量調査のため林さんの指揮の下で3×3m(2か所)と1×1m(1か所)の調査区域でヨシの本数、高さ、重量、稈の直径を測定した。詳細は省略するが1平方メートル当たり30本前後、穂を含む高さは4m前後、直径は11cm前後であった。後日、林さんが乾燥重量を測定後取りまとめた結果では地上バイオマス量(dry)は1平方メートル当たり1~1.2 Kgであった。前日の雪が残り冷たい風が吹く中の調査であったが広大なヨシ原に入りヨシの高さと密生状況が体感できた。



■ 2月22日(土) 10:00~12:00 動物カメラのメンテナンスと屋外の森の散策 場所: 生活実験工房 参加者: 会員5名

内容: ① 動物カメラのメンテナンス(電池、SDカード交換)・・・鳥類はキジバトとシロハラ及び久しぶりにハシビロガモ(♂、♀)が確認された。哺乳類はタヌキ、キツネ、ネズミが確認された。② 予定していた屋外の森のメンテナンスは雨のため中止し森を散策しながら植物などの観察を行った。

■ 3月14日(土) 13:30~16:00 動物カメラのメンテナンス、屋外の森の保全活動など 新型コロナウイルス対策のため中止

【活動予定】

◎4月11日(土) 13:30~15:00 集合場所: 生活実験工房

内容: 屋外の森の保全活動など

◎4月25日(土) 13:30~15:00 集合場所: 生活実験工房

内容: 未定

★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか

★参加を希望される方は 森人(もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



(23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中井 克樹

【活動報告】

この原稿を書いている時点で、新型コロナウイルスのあおりを受けて活動を休止しています。3月29日(日)には研鑽会を予定していますが、開催できるかどうかはなお不透明です。

【活動予定】

4月以降の活動については、未だ計画ができない状況です。



(24) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

【活動報告】

■ 2月8日(土) 13:30～ 魚類自然史研究会での研究発表に向けた議論 場所: 琵琶湖博物館 オープンラボ
参加者: 5名 (はしかけ4名 学芸員1名)

3月21～22日に予定されていた魚類自然史研究会に向けて、当日用プレゼンテーションの叩き台を元に、どのような研究発表内容とするかを議論しました。

発表名義は全員の共著とすること、発表内容については琵琶湖環流に関する物理的知見について時間をとって説明していくことなどが決まりました。

また、講演要旨については次回会合までに原稿提出せねばならないのでメール上で議論することとし、2月21日から3月6日にかけて議論を進めました。

この議論から発展する形で、以下のような多岐にわたる議論が行われました。

- ・安曇川沖水中島や近くにある琵琶湖最深点付近での水流について
- ・観測機器の作り方について
- ・水中島の模型を「縦横比」をきちんと制御して作り直してみることについて

■ 3月14日(土) 13:30～ 魚類自然史研究会に向けた準備 場所: 琵琶湖博物館 実習室1

コロナウイルス対策のため中止、魚類自然史研究会自体も延期となりました。

【活動予定】

当面は原則として毎月第二土曜の午後に会合を持つことにします。

■ 4月11日(土) 13:30～ 場所: 琵琶湖博物館 実習室1

コロナウイルス対策のため中止になる可能性もあります。



(25) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 33名】

グループ代表アドレス: hashi-mizu-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 楊 平

【活動報告】

■ 11月24日(水) 8:30～14:00 天気: 晴時々曇り 参加者: 6名 活動場所: 東近江市伊庭町

調査目的: 伊庭町の日本遺産認定の「農村風景」の昨今の調査。

●調査場所詳細: 調査に際し「水辺の郷伊庭景観保存会」のご協力を得る。

・伊庭の水事情: 集落内を流れる伊庭川からの流入水を農業用水として使用。生活用水として各戸毎に井戸も利用。また「カワト」も各戸装備。昔は水路が交通手段(農業水路・物販流通)。舟を各戸が所有していた。現在は掘割を埋め道路が拡張されている。

・伊庭の三大文化: 同年組織という男性の同じ年の組織が今も寄進、祭りなどの組織の中心として存在。伊庭の坂下し祭りは5/4に行われる神輿を断崖絶壁の坂道から下す神事。各戸には過去帳の絵系図版で代々の系図を男は僧衣姿、女は尼僧姿で描きこれを巻物として保管されている。

・湧水地点して: 大濱神社の手水湧水、薬師堂稲川折玉大明神の手水を採取。

■ 12月20日(火) 8:30～14:30 天気: 晴時々曇り 参加者: 5名 活動場所: 東近江市五個荘町金堂・川並地区

調査目的: 五個荘地区金堂伝統的建造物保存地区としての近江商人屋敷の当時の生活様式の知識見聞。

周辺の湧水場所調査。

●調査場所詳細

・五個荘商人屋敷は「ボランティアガイド」へ依頼。丁寧な説明受ける。地区中央に真宗の本堂の大きな延暦寺に次ぐ弘誓寺を有している。江戸中期以降、呉服、綿、絹織物製品を中心に商圈を拡大。明治初期には豪商も地位を得たのはみなさんご存じのとおり。「三方よし」の誕生地。

・銚子が淵(川並町)の湧水調査: 乾徳寺山道の今は瓜生川よりポンプUPされた水と溝の脇から湧出している水が水路を形成しておりマガモが遊泳。

■ 1月8日(水) 8:30~15:30 天気：雨のち曇り 参加者：5名 活動場所：東近江市白鳥神社5社および五個荘地町
調査目的：昨秋調査した白鳥神社を再訪問し各社の新年の勧請吊りの架替え奉納の実態の調査、新春の祈り実態調査と、五個荘町湧水追加地点調査。

●調査場所詳細

・白鳥神社の勧請吊り事情として「フィルレポート」にて紹介記事参照願う。石谷町、市原野町、高木町、池の脇町の各白鳥神社、上二俣町の若宮神社とも謂れのある独自の勧請吊りが吊り下げられており、伝承の意義は十分。
・五個荘町追加湧水調査：A 西ノ庄澤(伊野部建部神社) 雨壺が掲示板で確認できたが現物は未確認 B 百々矢神社の瀧 神社本殿に向かって左手の築山より瀧を形成されており相当量の水が流れ出ている。財を成した豪商が参道正面の箕作山山中より人工的にパイプを通しサイフォンの原理で水を導き込んだもの。C 似小戸(におど) 霊泉 臨済宗妙心寺派仙禅寺の鳩戸霊泉。昔は涼をとる憩いの場所であったが現在はポンプ Up した井戸水を流し込んでいる。

■ 1月14日(火) 8:30~14:30 天気：晴 参加者：5名 活動場所：大津宿から瀬田一里塚の旧東海道エリア

調査目的：旧東海道筋の神社の注連縄、勧請吊りの新春の実態調査。

●調査場所詳細

・天孫神社、篠津神社、若宮八幡宮、和田神社、建部大社、各神社詳細の注連縄、勧請吊り詳細図は省く。

■ 1月24日(金) 8:30~15:00 天気：曇り時々晴 参加者：6名 活動場所：日野町7か所と東近江市岡本町

調査目的：熊野神社、高木神社の勧請吊りの状況調査および日野町湧水追加場所調査

●調査場所詳細

・勧請吊りの実態 A 高木神社は合成繊維製であり、伝承技術の継承が困難にありつつある。B 熊野神社は紀州熊野権現。勧請吊りは参道の左右の杉 の大木にかけられている。小正月は古式の矢を放つ神事が行われる。
・日野町追加湧水 A 金峯神社の澤水(日野町蔵王) 参道に小さな瀧あり。B 十二神社の沢水(日野町西明寺) 参道石垣下より沢水が流出している。C 西明寺地区県道沿いの脇水 防災工事時に湧出した水。鈴休神社の湧水境内右手に小さな水路がある。流出量はおくわずか。

■ 2月12日(水) 9:10~15:30 天気：曇り時々晴 参加者：6名 活動場所：東近江市船岡山周辺と安土町、野洲市

調査目的：蒲生野の船岡山で万葉ロマンを現地ガイドさんより拝聴。金柱宮跡、太郎坊宮まで案内願う。
壮大な万葉ロマンを享受する。有名神社の勧請吊りの実態調査と湧水場所の調査。

●調査場所詳細

・万葉の森船岡山 ●大津遷都の翌年 668 年に天智天皇が群臣とともに遊獵を行った地で元夫婦の額田王と大海人皇子相関の舞台となった地。優雅な万葉の歌で有名。特定の紫草は今後の地域遺産か？
・太郎坊宮(阿賀神社) は磐岩信仰・神体信仰が基始。参道に複数の霊泉あり。勝運寿福のご神徳。赤神山不動明王のご霊水採取。
・奥石(おいそ)神社は旧中山道沿いの「老蘇の森」に鎮座する神社。勧請吊りは見事なリース状で、品格を感じる。昔の森の壮大さを感じさせる。神社手水を採取。井戸水をポンプ UP している。
・三上神社(野洲市辻町)、新川神社(野洲市野洲)、行事神社(野洲市生畑)、屯倉(みや)神社(野洲市三宅)の各勧請吊りは、各社特長があり生まれた独自性に興味がわく、すべて立派なもの。伝承されている地域の皆様の努力には頭が下がる想いである。

*各神社の勧請吊りの写真、図解説は、「フィルレポート」新春の湖東、湖南地区の勧請吊り見聞録を参照願います。

(本稿の執筆者：小篠)



(26) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■ 2月21日(金) 9:00~11:40 天気 晴

参加者: ・ネイチャーズ 宇野さん、阿部、清田、小西、松村、津田

*二か月ぶりの作業日。春を思わせるような暖かさ。宇野さんもこんな天気はあんまりないとのこと。

*琵琶湖がきれい。対岸の山頂は雪化粧。

作業前の打ち合わせ。

*私たちが活動を休んでいる間に保護区内のチガヤ等は殆ど除草され、残された小さな草(チガヤ、月見草等)の除去。

*小さな松の苗を6本保護区の中に植樹。

*通路奥のスコープで掘り上げ雑草除去。



伊吹山がくっきり

海浜植物観察状況

*ハマエンドウ

- ・通路の所まで広がり落ちた松葉に包まれている。
- ・この前の雪のせいか、葉が縮んでいるようだ。
- ・茎が紅く新葉が出始めた所があちこちにみられる。
- ・幼虫を二匹見つけた。(根切り虫??)

*ハマゴウ

- ・どの枝の葉もすっかり枯れている。しかし、手で もむと匂いは健在。

*ハマヒルガオ

- ・どこにも何も見つからない。



ちじれたようなハマエンドウの葉

宇野さんから今後の予定について

・次回は保護区の琵琶湖側にハマエンドウが広がっているの、ハマゴウの枝を切りハマエンドウがひろがっていくようにしたい。

・ツルニチニチソウがはびこっているの、除草剤 を薄めて散布したが効き目がない。原液を刷毛で葉に塗って効果を確認し、早めに駆除したい。

・浜欠がまた進んでいる。このままだとハマゴウが危ない。しかし、種が拡散されることでどこかでまた根付くかもしれない等話があった。



久しぶりにミーティング。
宇野さん85歳元気です。



幼虫二匹。左側の幼虫はエンドウの若芽の下から発見



松を植えるまでに穴の中のチガヤの根を取り除き植栽



浜欠の状況 左: 現在の様子
右: 2019. 2・18日の様子

■ 3月3日(火) 9:00~11:15 天気 晴れ時々曇り

参加者：・ネイチャーズ 宇野さん、阿部、清田、小西、松村、津田

*北西の風が吹く寒い作業日

*琵琶湖は波が立ち、水もくすんでいる。

活動内容

*宇野さんが松の下枝を切っていて、保護区内がすっきりしていた。

*東側入口から琵琶湖に向かう保護柵を約1.5m拡大作業

*琵琶湖側のハマゴウの枝切と撤去（ハマエンドウが浜に向かって拡大しているため）

*保護区内のチガヤ、カワラヨモギ等の除去

*西浜のカワラハハコ観察



波立つ琵琶湖



少し、元気がないハマエンドウ

海浜植物観察状況

*ハマエンドウ

- ・通路の所まで広がり落ちた松葉に包まれている。
- ・今日は先月より葉っぱに元気がない。このところの寒さのためか？
- ・しかし、新芽は成長している。

*ハマゴウ

- ・どの枝の葉もすっかり枯れている。（2月と同じ）

*ハマヒルガオ

- ・どこにも何も見つからない。（2月と同じ）

*宇野さんからの話

・「ネイチャーズ新海浜」の活動（8年経過）をこの3月31日をもって解散したい。その後は個人でボランティア登録し活動する。

理由として

1. 登録だけして活動しない人が多い。（団体登録として管理できない）
2. 今まで熱心に活動していた人がいろんな事情でできなくなった。
3. 県の各部署での連携がなく話が伝わりにくい。理解する人が少ない。県の考え方が環境重視から変わってきた。
4. 松を東の浜に500本植えた（中部森林組合？）が後の管理ができない。
5. 予算減で地元負担に頼れない。

等のことから

その他、質疑及び今後の進め方

- ① 名札（県営都市公園ボランティア登録証）の回収・返却及び県への登録申請

・・・清田、小西。・・・5人以上は団体として登録可

（「海浜植物守りたい」メンバーは、これで団体登録する。）松村さんも含める

- ② 保険名義の変更について社会福祉協議会に確認する。（清田）
- ③ 活動場所は湖岸緑地 新海薩摩地区 （範囲：薩摩地区公園～愛知川堤防まで）
- ④ ベストはこのまま使用しても良い。
- ⑤ 6月から9月までは琵琶湖コンファレンスセンター駐車場となる。

（宇野さんが依頼してくれるとのこと）

- ⑥ 今までと同じように活動前に宇野さんへ連絡する。
- ⑦ 東浜のハマエンドウの保護がしたい。
- ⑧ 一度、みんなで話し合う必要がある。



杭の移動 左：施工前 右：施工後



ハマゴウの枝切・撤去



カワラハハコ



メマツヨイグサ？

【活動予定】

■ 3月20日（金）9:00～

3. 生活実験工房からのお知らせ

春の訪れとともに、生活実験工房の田んぼ体験行事が始まります。稲作作り体験では、5月～10月までの活動日が決まりましたので、お知らせします。時間を見つけて、体験活動へのご参加をよろしくお願いします。

担当係：交流係

【活動予定】

開催時間 10:00～12:00（受付 9:30～） 場所：生活実験工房
田植え、稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

5月 10日（日） 田植え
7月 26日（日） 昆虫採集
9月 6日（日） 稲刈り、はさ掛け（早稲品種）
10月 4日（日） 稲刈り、はさ掛け（晩稲品種）

4. その他の事項

（1）メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にともなって、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「https://www.biwahaku.jp/」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

（2）はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

（3）名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

（4）はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

（5）はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。